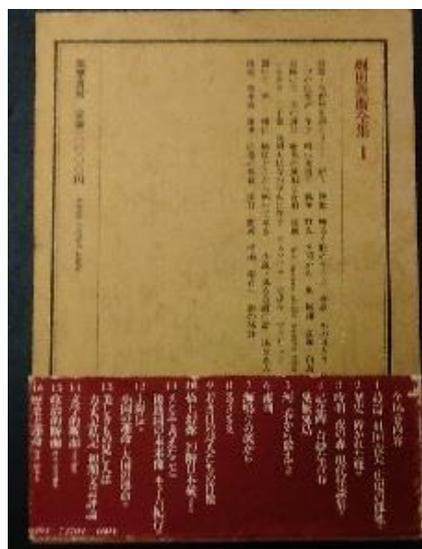
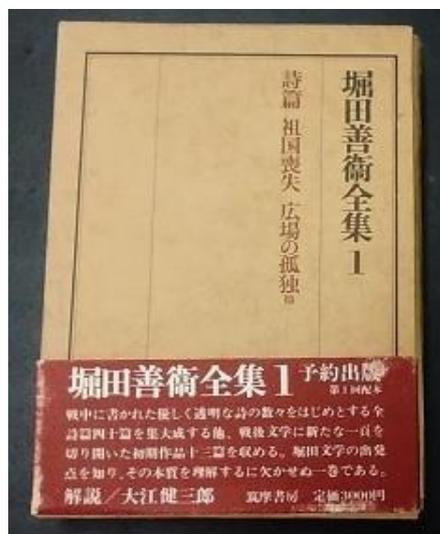


essais こころみ 2020年9月

(再掲) 2019年4月1日 (月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集 (筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2020年9月1日 (火) 曇りがち

台風が近づいているせいか、雲が多い。あいかわらず暑い。8月の平均気温は戦後最高だったとか。この分だと9月中旬に例年の8月中旬の感。旧暦では今年は閏4月があった。それも関係しているのか。

ー ビジネスコミュニティー ー

大阪府は5人以上の会食制限を解いた。先日NHKで「コロナ禍」のこの間をふり返っていた。豪華客船のこともずいぶん前のように感じるが、わたしたちの生活環境も意識もは変わった、これからまだ変っていく。

情報産業の最先端で仕事をしてきて、今は後進のためにそのキャリアを生かしている知人がいる。今年に入ってまだ連絡をとっていなかったのも、ご機嫌伺いにメールをした。

返信には、リモートワークやギグワークなどのメディアの取り上げ方が一面的で底浅いと嘆いていた。これから社会に出る学生や子供たちの未来を思うと、気がかりでならないらしい。

知人ほど「情報」の世界のことがわかっていなくても、特にギグワークなどは働く人にとっての利点はあまり感じない。彼らを使う側には好都合にできていると捉えている。

仕事したかったら、ビジネスを広げたかったら、このシステムを使いなさい、という仕組みが増えてきたけど、それも変わる可能性はある。もともと広げないのも一つの戦略であるけど、広げず、小さく、凝縮させて、買い手と密に経営を歩むことも、デジタルでやりやすくなる。

自分ならではのもので活動していこうとする人にとっては好都合な社会になっていくのではないか。主体的に、自律して、デジタルをうまく使いながら、人との密な関係を形成して、ビジネスコミュニティを創る。最近知った人もそれを地で行く。そういう人、すでにかなり増えている？

2020年9月3日（木） 曇り

少し陽がさしてきたが、今日一日は曇りの予報。昨日午後もいつとき強く雨がふった。それでもあまり涼しくはならない。ほんとうの秋が待ち

— 学びの秋、到来 —

将棋好きでなくても、記録をぬりかえ続けている藤井さんのニュースには目がいく。記者の質問に応える様子をみながら、よくぞこういう人が生まれたものだと感じる。

将棋好きの知人から聞いた話、たくさんの棋士が集う場でインタビュアーが全員に「もし神様にお願いするとしたら、何を願いますか？」と質問したらしい。

順番に、ある人は全勝させてほしい、ある人は…、続いて、ご本人の番になって、出た言葉が、「一度お手合わせ願いたい」。

すごい!おもわず手をたたいた、ぞくとした。なにか超越している、デキが違うというしかないか。常に将棋のことを考えているような。息抜き自体が将棋らというから、次元がちがう。

そんなこんな話を聞いて、ちょっと我をふりかえった。怠けてはダメだと気をひきしめた。学習資料を見なおし、復習することにした。まだ秋は遠いが、個人的には学びの秋、到来。

2020年9月7日（月） 曇⇒晴

台風10号に構えていたが、今のところ大阪はさほど影響がない。この台風がすぎて、秋がやってくるだろうか。今日は白露。

— 「コロナ」前と後 —

今朝の日経のトップは、「成長の女神 どこへ～コロナで消えた平和と秩序」、次のページの「迫真」は『コロナ 世界は今』。両方を読みながら、個人的に想像している2045年の世界への流れをみる。

5月30日付日経文化欄に「高橋源一郎」は『踏み止まる』を書いた。「コロナ禍」を目の当たりに作家はこの事態をしっかりと見据え、言葉していかなければいけない、そうするだろうと、自他ともに言い聞かせ、促すような文章だった。

作家でなくても、個人の記録として残そうとする人も多い。わたしもその一人、この場やリーズレターなどに書いているが、ここに来て、はっきりと感じる、コロナ前とコロナ後の意識の変化。

元々あまりまわりに左右されない、＜自分ならではの＞の志向が強い。人から「宇宙人みたい」と2度言われたことから、「世間」に気をとられてもいない。

それなりに超然と構えて、社会の中での自分の役目を探究していると思っている。このこと自体は変わらないのだけど、そのレベルが一段上がったというか、むしろ、凝縮されたというか…。

それもまた時間が経てば変わるのかもしれない。ともあれ今は、自分にできることは限られるけど、“あとは、自分のやるべきことをやるだけ…”という想い。だからこれまでやらなかったこともやる気になるから、おもしろ

2020年9月11日（金） 曇り

ようやく朝晩涼しくなってきた。季節の変わり目、曇ったり、晴れたり、雨がふったり。こうして少しずつ秋本番へ。

— 「書く」と「話す」の再発見 —

これまであまり意識しなかったことを今さらながらその意義に気づいて認識を新たにすることがある。例えば「読書」がそうだった。若い頃の読書が長い時間をかけてその人の確固たる＜自分文化＞をつくるのだとしみじみ感じたのは4年ほど前だった。

この4月から音声発信を試み、回を重ねて、自分なりに気づいた、「書く」と「話す」の大きな違い。「書く」の多面的、重層的で、そして清濁合わせもつ働きを想った。

とにかく「書く」はある意味、「知的活動の＜過程＞」、「話す」は＜結果＞。はたまた、「書く」は＜思考運動中心＞、「話す」は＜身体運動中心＞。そんな風に捉えた。

「読み書き算盤」という言葉があるが、5つの知的活動をさす「五知」は、「読む、書く、覚える、算じる、まとめる」。「話す」は入っていない。

「書く」は、これまでの認識以上にもっと大事な日常の営みではないかと思い始めた。年を重ねれば尚更ではないか、とも。そして「書く」動機を刺激する五感の精度をなるべく保つようにならなければと考えた。

視覚が情報経路の8割としても、聴覚と嗅覚、そして触覚が、何らかの気づきや内なる感覚を呼び覚ます。ということで最近では電車の大きな滑走音や地下鉄ホームの大きく響くアナウンスには必ず耳をふさぐ。

ともあれ、「書く」意味を再認識する2020年秋の始まり。

2020年9月14日（月） 晴れ

今日は一気に涼しくなった。先週の服装ではひんやりする。ようやく秋到来。虫たちのバラバラな合唱もボリューム感がでてきた。秋分近し。

— 開けて微笑むか2030年の扉 —

「コロナ禍」でオンライン、リモートが広がり、「対面」に特別な意味が出てくると感じた人は少なくない。わたしも早々に感じた。

先週末ある機関から先週末に届いた講座の案内にその一端をみた。概要をチェックしながら、おもわず含み笑いをした

講座はAIに関するもの、対象は経営者やマネジメント層、午前10時に始まり午後5時半までの一日講座、講師は3名。

受講方法は3パターンで定員は、会場参加12名、オンライン100名、動画配信(定員なし)。

参加費はそれぞれ、5万円、1万円、5千円。会場参加はランチあり、交流会あり、フリーディスカッションあり。オンラインは質問可とのこと。

「会場参加」の特別感が演出されている。with コロナ時代、当然こういうメニューを考えるようになる。

これからも対面が特別なものになったなら、さて、今後の社会に吉と出るのかそうでないか。否、功罪合わせもつのが世の常。

『真に貴重な情報は“流れの変化”にある』と著名な数学者が言っている。コロナ後の「ニューリアリティー」という言葉も出てきた。

流れの変化をどう読むかはその人しだい。「宣言」解除から3ヶ月がすぎ、少し落ち着いて今の事態をみて、今後を考え、個々の「新しい常態」に世の中が動きだしている感。

それらの動きが社会全体の新しい常態を映す。その姿が目に見えるようになるのは10年後、2030年頃のはず。もし今、2030年の未来の扉を開けてみられるとすれば、微笑むことになるのか、扉を閉めたくなるの

2020年9月17日(木) 曇り

ようやく歩く気になってきた。火曜の帰り道、久しぶりに韮公園へ寄った。歩くぐらしか運動らしい運動はしていないので、これからは精進しなければ。昨日も今日も、少々蒸し暑い。

— 25年後に思い至る厚意 —

これまでの何度となく引用しているが、『人生という作品』(三浦雅士)の冒頭部分に、人間個々人、自分の過去は決定されていない、未来が変れば過去の意味は変る、というようなことが書いてある。

そうだなあと思うことを実際に何度か経験しているし、これからも折にふれ、過去の意味合いはまだまだ変わるにちがいない。

昨日の朝、25年も前の2つの出来事が、一つにつながっていたことに思い至った。なぜ今ごろ気づいたのか、自分自身に少し呆れた。人間として幼かったというしかない。

今ひしひしと、25年前の人の厚意を感じるようになった。未来にこういう展開が待っていてよかった。あまりに遅すぎたが、先方の深い想いに少し報いることができた。

ただそれを伝えることはできない。その人はもうこの世にいない。

2020年9月24日（木） 曇り

昨日今日は少しむし暑い。薄日がさす程度で、空模様はすっきりしない。今夜は上弦の月。十五夜は一週間後の10月1日。

— 屈服と心服 —

新しい政権が発足して、各所、各界の反応や政策への期待などを取材した映像がテレビが流れていた。たまたまみた局は沖縄県の経済界重鎮に話を聴いていた。その際に出てきた言葉が屈服と心服。

屈服させるのではなく心服させなければ、とその重鎮は言ったのだった。まったく知らない人だけど、なんとなく教養の高さを感じた。印象的であった。すぐにメモをした。

屈服または屈伏。辞書には「相手の力や権力に負けて服従すること」。心服は、「心から尊敬し、服従すること」。雲泥の差である。苦々しくも、どうしようもない力関係、ある種の諦観も感じられる話だった。

ところで、こうして調べた言葉の意味は半紙の短冊に筆ペンで書いて束ねている。今年の春頃、他の用途のために買った半紙がたくさん残っていて、やり始めた。やってみると、これがなかなかいい。

まず、書く時はおのずと姿勢を正す。自然にそうなる。筆で文字を書く映像は過去に何度となくみているから、書き方もゆっくりと、もったいぶったようなカタチになる。すると、文字もそれらしく書ける。

習ったことはないのに、見映えする。驚いたことに、文字列も左右にあまり傾かず、けっこう縦一戦に書けている。不思議。そして何より、文字がはっきりくっきり、太い細いのメリハリもあって、見やすい。

昨年春までは専用のフォームを作って記録していたが、今ではすっかり短冊&筆。気に入ったキャッチコピー、名言、ちょっとした解説文など、種類別に7つの束になった。それらを時々見返す時間もまた一興

2020年9月28日（月） 晴れ

朝晩涼しくなった。ようやく秋がくる。今週木曜は十五夜、満月は翌日金曜。両日ともに雲も多いようだけど、なんとか名月は望めそう。

— 生きるって面白いんだけどなあ —

9月からの「ひと言ひとり言」は自業史のエピソードを軸に話している。今朝は4つ目のエピソードの締めくくったが、その中で何度となく、生きるって本当に面白いと話した。

昨日朝に流れた速報には絶句した。2番目の子どもが生まれて間もなく、まだ40才という若さの女優さんが何故…。このところ同様のニュースが続いているが、何か共通する要因があるのだろうか。

今から20年ほど前、友人が何をおもったか、ふとこんなことを言った。「シングルで、将来不安じゃない？」。

今さらの感、キョトンとしつつ咄嗟に出た言葉は、「そうだったとしたら、今こうしていないと思うよ」。ヘンなことを聞いてしまったという表情で友人は、「そりゃあ、そうよね」。

実験人生。どう転んでも一人だから、自分の想うところ、信じるのがどこまで通用するか、やってみよう。独立の際にそう考えた。おそらく安定とは程遠い道すじになるのは容易に想像できた。

自分の想うように生きる分、不安定は甘んじて受ける。それなりの潔さはもっているつもりでいる。でも、自分の想うように生きること自体、贅沢なのかもしれない。それを許さない状況も多い。

順風満帆で一生を過ごす人の方が稀。わたし自身もいろいろあったし、これからもあるだろうが、自他ともの認識を刷新、再編集して、自分の世界観を形成し、確かなものにしていく感覚は生きていればこそ。

“生きるって面白んだけどなあ”、昨日から何度となくリフレイン。



2020年度の半分が終わり、10月に入りました。今年は本当に何という年でしょう。安倍首相の突然の辞任も驚きました。11月にはアメリカ大統領選挙。想像を絶することがまだあるのではないのでしょうか。

2020年10月7日